



そしきクンが行く!

寒かった1月もあっという間におわりましたね! 2月も、そしきクンは皆さんの会社をまわります。いろんな話が直接聞けて、廻る人が一番得をしていると思います! みんなも一緒に、取材にいきませんか?

今月のテーマは「木材・家具・装備品製造業」だよ。どんな歴史をたどって、今はどういう事業展開をしているのかな?

太陽工業(有)		代表取締役 三浦 邦昭さん	所在地 / 旭川市永山町6丁目1-74 電話 / 0166-48-2118 FAX / 0166-48-2120
企業データ		業務内容	主力商品・サービス
設立 / 1944年2月	資本金 / 2700万円	木製建具	木製建具全般
従業員数 / 27名	入会 / 1974年7月	木枠工事	防火ドア
紹介者 / 長谷川農林産業 (株)		木工事	老人用引き戸

歴史が語る建具業界の優良企業



Q1: 趣味はなんですか?

30歳の時にはじめてゴルフです。30年目がたちまして、現在HD7です。

Q2: 御社の魅力とは?

または御社にお仕事をお願いするとどんないい事がありますか?

北海道の厳しい自然の中で生き抜いた厳選された素材を生かし、高級感のあるドアを提供しています。また、老人用の引き戸など、高齢者対応の建具を数多く取り揃えておりますので、リホームなどのお際には、是非、ご相談下さい。

Q3: 御社のビジネスの転機とは?

厳しい時代を乗り越えつつ、業界を超えて、旭川の木工技術を世界に誇れる日本の技術として、家具業界と連動しながら、東京市場での展開を実施しています。業界各社の技術レベルは高く、技術集団としての連帯が、修理も含め、よりいっそう複雑化する顧客ニーズに対応できるように、それぞれの得意分野を持ち寄り、皆で力をあわせています。

Q4: 御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

旭川の自然の厳しさや、やさしさ、この土地の木を一番よく知っている自分たちだからこそ、この土地に合った建具をつくることができるという、誇りがあります。自然から授かった木材と共に、その自然からの恵みを大切にしながらつくる建具を通じて、ひろく社会に貢献してゆきたいと考えています。

そしきクン(取材者)よりひと言

久しぶりに、「そしきクンが行く!」の取材に参加させていただきました。こんなに身近な場所で、こだわりのモノづくりに取り組んでいる企業があったなんて驚きです。私も木材業界に関わる一員として、その厳しさは肌身で感じています。しかし、企業が丸となって工夫を凝らし、自社にできる事は何か?を徹底して追い求める姿勢の中に、これからの展望が開けていくのだと思います。改めて、あらゆる感動を生き抜く同友会会員さんの企業実践に触れ、経営者の生の声を聞かせていただく大切さを学びました。この感動を多くの会員さんにも感じていただければ、活動の可能性がグンと広がるに違いありません。また、機会がありましたらインタビューに参加させていただきたいと思っております。

(株)黒川ベニヤ商会 総務部長 北村 志保

(株)いさみや		代表取締役社長 関口 浩樹さん	所在地 / 旭川市永山町9丁目 http://www.isam-net.co.jp 電話 / 0166-48-0200 FAX / 0166-48-2292
企業データ		業務内容	主力商品・サービス
設立 / 1964年11月	資本金 / 1800万円	図書館家具、オフィス家具、ホテル家具	主力商品は、ユーザーニーズを取り入れた
従業員数 / 48名	入会 / 1979年9月	商業施設、住宅などの特注家具・什器の製作	オーダー家具の設計・製作
			サービスとしては、過去に製作販売した家具の修理・再生

業界を牽引する技術集団企業



Q1: 趣味はなんですか?

1999年に「大病を患ってから夜遊びは止め、子供の頃から趣味としていたカメラを復活させ、花の撮影、孫の撮影を楽しんでいます。

Q2: 御社の魅力とは?

または御社にお仕事をお願いするとどんないい事がありますか?

弊社は、多量生産から1品生産に切り替え、家具を使っていただくお客様のご希望により、樹種、色彩、機能等を100%取り入れたオーダーメイドを行っております。また、社会問題となっているシックハウス症候群対策にも注力し、安心してご使用いただけるよう日夜研究開発に取り組んでお

Q3: 御社のビジネスの転機とは?

1989年ごろ、日本経済がバブルの絶頂期であるにもかかわらず、家具の売行きが伸びず試行錯誤の結果、オフィス家具に挑戦。家庭用家具から特注家具・OEM生産に切り換えた。日本の住宅事情が大きく変化し、それに対応できなかった仲間の数多くを失った。

Q4: 御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

家具の主原料である木材が、過伐採のため極端に不足し始め、お客様が要求される良材が入手困難という状況になりつつあります。このような資源不足を踏まえて、未利用材や不良材をいかに処理して家具材を作り出せるかの研究、家具にとらわれず、木材加工業という考え方で新分野への進出など、もう一度大きく舵を切る必要があります。

そしきクン(取材者)よりひと言

今回、(株)いさみやの関口社長さんからお話を伺わせて頂きました。創業から50年を超える旭川でも老舗の家具メーカーで、常に時代を見据えた経営をされている印象を受けました。しかしお話の中で「歴史と伝統が重くなっている」という言葉が、家具業界全体を意味している深い言葉でもありました。現在、息子さんが後継者として同社で修行中で、更に新しい発想、新しい分野での家具メーカーとして大きく舵を切る準備をされており、(株)いさみやさんの家具は、新しい歴史を刻んで行くの

日新運輸(株) 専務 森 俊一